第１３回宇宙政策委員会　議事録

１．日時：平成２５年３月２９日（金）　１５：００－１６：３０

２．場所：内閣府宇宙戦略室５階会議室

３．出席者
（１）委員
葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、中須賀委員、松本委員、山川委員、山崎委員
（２）政府側
山本内閣府特命担当大臣（宇宙政策）、西本宇宙戦略室長、明野宇宙戦略室審議官

４．議事録
山本大臣から、以下のような挨拶があった。
・前回、設置が決定した４つの部会について、今週、早速３つの部会の審議が開始されたと伺っており、精力的なご議論に感謝申し上げたい。
・予算を増やす努力をすることは当然だが、厳しい財政事情の中、宇宙利用の拡大、自律性の確保という新たな宇宙基本計画における２つの基本方針を踏まえて、メリハリのある宇宙予算の編成が必要不可欠。
・戦略的予算配分方針については、昨年よりも早く審議を開始いただくことで、各省の行う予算要求にこれまで以上に反映させていきたい。

（１）独立行政法人宇宙航空研究開発機構（ＪＡＸＡ）中期目標及び中期計画（案）について（報告）
事務局から資料１－１、資料１－２に基づいて報告を行った。

（２）調査分析部会、宇宙輸送システム部会、宇宙科学・探査部会の状況（報告）
各部会長から資料２－１、２－２、２－３に基づいて報告を行ったところ、以下のようなやりとりがあった。
（以下、○委員発言、●事務局等発言）

（宇宙科学・探査部会について）
○宇宙科学については、ＩＳＡＳが計画を立てているが、部会として、予算の制約の中でどのような検討を行うのか。（松本委員）

○ボトムアップの議論はＩＳＡＳ内の宇宙工学委員会と宇宙理学委員会にてなされているので、この議論を踏まえて優先順位や宇宙科学・探査に関する長期的な考え方など、大局的な戦略の部分をこの部会でまとめていく。（松井部会長）

（調査分析部会について）

○部会における調査分析に基づいて、法整備も含め、我が国としてどこが足りなくて、どういったところを改善していけばいいのかといったような提言を行うことも、部会の範疇に含まれるのか。（山崎委員）

○そこまで行ければ行きたいと考えている。（中須賀部会長）

○宇宙開発利用に携わるうえでは、外務省、経済産業省、防衛省など関係府省との関わりがあると思うが、部会の情報は、現場や役所の方々とどうつながりを持ってやって行く予定か。（松本委員）

○部会に所属する委員は非常にアクティブに活動されており、人的ネットワークを強く持っていらっしゃる方が多いので、まずはこのネットワークを活かしていきたい。また、外務省などを始め、宇宙戦略室の持つネットワークも活用していきたい。（中須賀部会長）

○省庁間の連携は絶対に必要だが、宇宙戦略室には、司令塔機能を発揮するうえで、各省にも情報提供などで協力してほしい。（松本委員）

○部会の調査によって集まった情報は、一般に公開するかしないかも含めて、部会でしっかりと仕分けていく。部会としては、いつまでにどういうことを調べるかというスケジュールなども明確にさせていく必要があると考えている。（中須賀部会長）

○ほかの部会との役割分担の調整はどうするのか。（松井委員）

○宇宙科学や輸送など、個別分野に関しては、それぞれの部会のほうが強いネットワークを持っているので、それぞれの部会で調べてほしい。ただ、国の政策など、分野横断的な事項については、調査分析部会の役割であると認識している。（中須賀部会長）

（３）宇宙政策委員会　宇宙産業部会の委員について
委員長により指名された宇宙産業部会の委員について了解された。

（４）平成２６年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針の検討の視点について
事務局より、資料４に基づいて説明を行ったところ、本議題に対して、以下のようなやりとりがあった。

〇利用拡大のためには、利用府省もしっかりと予算獲得をすることで、利用者が主体となって事業を進めることが重要であり、予算の在り方をきちんと議論すべき。（松井委員、山川委員）

〇関係府省が予算を獲得し、ＪＡＸＡを使っていくということがわかるような書きぶりにするべき。（松本委員）

〇利用拡大には安全保障が含まれることを明らかにするべき。また、政策の効率的な実施のために、宇宙利用が重要であるという視点も入れるべき。（山川委員）

〇メリハリのついた宇宙予算を編成するうえで、提出された概算要求に対して評価をし、事業の見直しによる予算の削減をすることだけでなく、新しい利用の拡大にあたっては、新規事業を発掘することや重点事業は予算の増額が必要であり、宇宙戦略室及び宇宙政策委員会が何らか政策的な支援ができるようなスキームは考えられないか。（山崎委員）

〇財政的に総枠が拡大する余裕が無い中で、優先順位を決めて、先にやるもの、延ばすものを決めて、メリハリを付けていくという方法をとることになると思料。（葛西委員長）

〇資料中、「本来のＪＡＸＡの業務範囲は科学技術の振興のみならず実用システムの開発等を含めた幅広いものとなっている。」とあるが、現行のＪＡＸＡ法において、実用システムというものがどこで読めるのかは明確にしておくべきではないか。（青木委員）

●ＪＡＸＡは、旧ＮＡＳＤＡ時代には気象、放送・通信衛星などの実用シ

ステムの開発等を行っていた経緯があることから、実用システムの開発等は当然行うことができるものと考えている。他方、ＪＡＸＡは独立行政法人として、民間が行うべきことまで行うのではなく、国が行うべきことを行うものと考えている。（西本室長）

○有人宇宙活動や宇宙探査もまた、広義の安全保障も含めたうえでの宇宙利用の拡大に密接に関連するという視点も盛りこむべき。（山崎委員）

○調査分析部会あるいは宇宙産業部会での議論になるかもしれないが、どういう技術に日本として投資していくか、または注力していくかということは非常に大事。（中須賀委員）

○宇宙分野外も含めた潜在的宇宙利用分野の方々との情報交換を行う場を設けることで、我が国の抱える問題解決手段としての利用を含め、宇宙利用の拡大を図るべき。（中須賀委員）

●昨年、宇宙戦略室が発足してから、これまでに２０回以上シンポジウムやイベントに出席し、宇宙政策の普及啓発を行った。その中で、宇宙分野は開発者と利用者の距離がまだまだ遠いと感じた。異なる分野の人を近づけることで新しいビジネスチャンスが生まれるはずなので、いろいろな場の設定を考えていきたい。（西本室長）

○欧州では、ＥＵとＥＳＡ間で、ＥＵの抱える社会問題について宇宙を使って解決するべく、トップレベルで常にミーティングを行っている。このように、草の根の議論だけではなく、日本の中の戦略や政策立案のトップレベルでも密な連携が必要であると考えている。（中須賀委員）

審議の結果、平成２６年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針の検討の視点については、委員会として了承された。

（５）その他

事務局より、「宇宙開発利用大賞（仮称）」の創設について紹介した。

以上